

年 組 名前 :

廃家電リサイクル強化へ

レアメタルを確保

環境省は、レアメタル(希少金属)をはじめとする金属資源を確保するため、廃家電などのリサイクルを強化する方針だ。国内の回収量を増やすとともに海外からも輸入して処理する計画で、2030年度の処理量を現行から倍増させることを目指す。



回収された使用済みの携帯電話



回収されたパソコンの電子基板

脱炭素化を背景に普及が進む電気自動車(EV)にはリチウムなどレアメタルが不可欠。国際的な資源獲得競争が激化する中、産業競争力の確保や経済安全保障の観点から急務だと判断した。

輸入先は主に東南アジアを想定。携帯電話やパソコンの電子基板など、各国で処理が困難な廃家電の輸出を働きかける。プラチナやパラジウムが使われている自動車部品も念頭に置く。レアメタルのほか、銅やアルミニウムといった多くの製品に使われる金属も対象となる。輸入後は、日本国内のリサイクル拠点を活用する。日本鉱業協会によると、加盟する12社が20年度、金属を得たためにリサイクルした使用済み電子機器などは89万ト。環境省は「倍増に向け、各社の処理能力に余力はある」とみる。経済産業省など関係官庁とも連携して進める方針だ。一部のレアメタルはEV向けの需要が高まるなどして価格が高騰。歯科治療の銀歯にも使われるパラジウムはロシアが主要産地の一つで、ウクライナ侵攻の影響で供給を不安視する向きもある。環境省の担当者は「東南アジア諸国と築いてきた協力関係を土台に、十分な量を輸入できるように交渉していきたい」と話した。

問1

レアメタルなどの金属資源を確保するために、環境省は、どのような活動をしていますか。

.....

問2

今なぜ、レアメタルが必要となったのでしょうか。

.....

問3

リサイクルされた金属は、東京 2020 オリンピックでも利用されました。何に使われましたか。

.....

(2022年5月22日付 山梨日日新聞 5面)